

鹿児島県のすべての児童・生徒の学力向上へ向けて  
～令和2年度鹿児島学習定着度調査の結果から～

義務教育課

調査全体の結果概要

鹿児島学習定着度調査は、毎年度、主として、調査の設定通過率を「基礎・基本」8割、「思考・表現」5割、全体の通過率を7割に設定し、調査問題を作成しています。

令和元年度の調査では、全体の通過率が7割を超えた教科が、14調査中7教科でしたが、令和2年度の調査では、14調査中8教科と増えました。

特に、中学校において通過率が大幅に上昇した教科が多く見られました。

令和2年度の結果（平均通過率）

（2月3日現在：速報値）

※  は、70%以上。  は、65%以上70%未満。

		国語	社会	算数	理科	英語
小5	全体	75.0	75.5	69.4	74.9	
中1	全体	78.7	64.4	74.9	70.4	68.1
中2	全体	76.7	67.7	67.1	70.9	57.8

（参考）

【令和元年度】

		国語	社会	算数	理科	英語
小5	全体	73.6	72.2	76.7	81.2	
中1	全体	79.6	64.9	71.3	64.8	67.9
中2	全体	74.5	61.2	60.7	58.0	61.0

【平成30年度】

		国語	社会	算数	理科	英語
小5	全体	60.1	72.9	72.8	54.6	
中1	全体	61.9	62.2	59.7	59.2	73.3
中2	全体	67.6	51.2	60.8	50.3	51.7

【平成29年度】

		国語	社会	算数	理科	英語
小5	全体	66.8	65.6	62.7	68.8	
中1	全体	65.1	53.3	62.8	55.1	63.3
中2	全体	63.9	57.1	59.0	46.3	59.8

中学校で通過率が向上した教科が増えた要因は？

今年度、県教育庁義務教育課では、中学校の数学、社会、理科の先生方へ向けてメッセージを送りました。内容は、毎年出題している設問の考え方や授業でそれらの課題をどのように扱ったらよいかという点についてまとめたものです。それらの教科では、設問によって、20～30%以上の通過率の向上が見られるものもありました。これは、中学校の先生方が、このメッセージを受け、本気で授業改善や問題演習等に取り組んでいただいた結果と考えます。

なぜ、演習問題等の取組が必要なのか？

これからの時代を生きる児童生徒には、個別の知識ではなく、生きて働く（活用できる）知識が求められています。このような力を身に付けていくために、県教育庁義務教育課では演習問題等への取組を推奨してきました。

改めて目的を整理すると以下ようになります。

① 問題を見て、求められている力を知り、授業を改善する

➡ 児童生徒にとっては、初見の間いにも対応できるようにすること、教師にとっては、問題で求められている力や問題の流れを研究することで、授業のどこを工夫・改善していくかを考える機会とすること。

② 「やればできる」自信を児童生徒に持たせる

➡ 粘り強く取り組むことで、児童生徒に問題を解くことができる喜び、達成感を味わわせること、教師にとっては、児童生徒の定着の状況を見取りつつ、授業改善を図ること。

※ 新学習指導要領が求めている育成すべき三つの資質・能力である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育むために、学校全体で児童生徒の適切な実態把握、分析を行い、演習問題を活用した確実な見届けを年間を通して計画的に実施し、授業改善に努めていきましょう。